

国際会長主題	「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」	Samuel Chacko (インド)
アジア太平洋地域会長主題	「新しい時代とともに、エレガントに変化を」	Chen Ming Chen (台湾)
東日本区理事主題	「未来に向けて今すぐ行動しよう」	佐藤重良 (甲府21)
東新部部長主題	「All 東新部、始動! Change! 2022 ラストスパート、ポスト2022 始動」	深尾香子 (東京多摩みなみ)
クラブ会長主題	「心を尽くしてYMCAのために」	小川圭一 (東京世田谷)

会長 小川 圭一
副会長
書記

2022年12月会報

強調テーマ
* キリスト教理解 *

I B C

会計 小原 武夫
直前会長 峰 毅
担当主事 江尻 明子

↑ 今月の聖句

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

But the angel said to them. "Don't be afraid! I am here with good news for you, which will bring great joy to all the people. This very day in David's town your Savior was born—Christ the Lord!

新約聖書 ルカによる福音書2章10-11節

- | | |
|---------------|--|
| 司会 | 村野 繁 君 |
| 1. 開会点鐘 | 小川 圭一 会長 |
| 2. ワイズソングと信条 | 一 同 |
| 3. ゲストとビジター紹介 | 小川 圭一 会長 |
| 4. 今月の聖句朗読 | 寺門 文雄 君 |
| 5. クリスマス礼拝 | 説教 経堂緑岡教会 増田 琴 牧師 |
| 6. ハッピーバースデー | 12/16 秋田正人君
12/1 佐藤百合子さん 12/18 村野絢子さん |
| 7. 結婚記念日 | なし |
| 8. ニコニコ献金 | |
| 9. 諸報告 | |
| 10. 閉会点鐘 | 小川 圭一 会長 |

☀ 12月例会プログラム

とき 令和4年12月16日(金) 18:30~19:30
ところ 東京YMCA南コミュニティーセンター3F
電話 03-3420-5361

ハイブリッド開催

11月のデータ	会員在籍	14名	例会出席者	11/18日(金)	11月のBF他献金 切手 0g 現金 0円 累計切手 0g	ニコニコファンド 11月 6,021円 年度計 28,882円	
	出席率	71%	会員	11名			
	第2例会	(中止)	メネット	0名			
			イキャップ	0名			
			ゲスト	8名			
			ビジター(含むzoom)	2名			
			合計	21名			
			すずらん会(中止)				
			ゲスト	名			
			スタッフ	名			
			合計	名			
			新型コロナウイルスの影響で				
			2021~2022年度 自主献金については今期に限り クラブからの献金とする				

本日のメインプログラム

クリスマス礼拝

説教 経堂緑岡教会 増田 琴 牧師

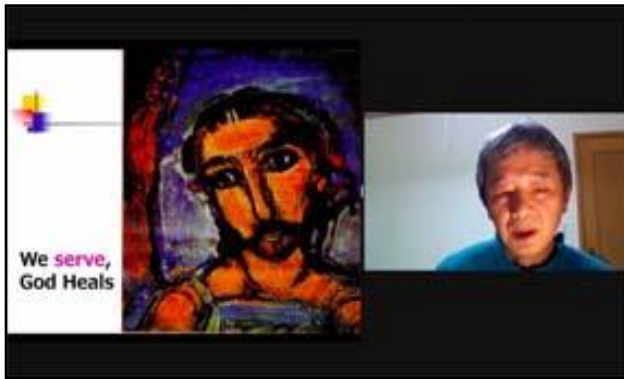
司会 村野 繁

聖書 ルカによる福音書2章 10-11節

説教 「今日、あなたに」

讃美歌 106番「荒野のはてに」

✪ 11月例会報告



大江 浩氏

卓話 要旨

「大江 浩 自分史を語る～出会いと繋がり」

学生時代のキャンプリダーに始まり、キリスト教との出会いや現在に至るまでのキャリアを通して出会った人々や体験のエピソードをお話いただきました。

大学時代：心理学専攻。キャンプ・ボランティアとの出会い
大阪府青少年野外活動センターのリーダーとして、被差別部落の子ども達、朝鮮学校の子供達、聴覚障害児等のキャンプを通して、社会を学んだ。4年生最後のキャンプのカウンシル・ファイヤーでディレクターから”Mountain over Mountain—山の向こうに、また山がある”(=人は一つ一つ山に登り続けていく存在)と教えられる。

キリスト教との出会い

大阪の歓楽街近く教会でクリスマスキャロリングに参加。初めて路上生活者の人に出会う。夕拝に泥酔した男性が参加。「初めて誰かに自分を顧みられた」と教会を後にした男性の涙に、キリストとの出会いとを思いを重ね、孤独に寄り添い人を変える力を感じて受洗。

神戸 YMCA 余島キャンプで

“Tomorrow’s leaders are made today”—人と出会い・神と交わり・愛の火の燃えるところ—余島全体が”チャペル”だと今井鎮雄氏(当時神戸 YMCA 総主事)に教えられる。

アジア YMCA 青年・指導者会議 in 香港 (1983年) で

香港島の不法定住者地域を視察。日本にはスラムなどないと思っていたが、横浜・寿町の越冬支援に関わっていた横浜 YMCA のボランティアから路上生活者の孤独死や凍死

を知り、衝撃を受け、地元神戸のことを知った。

阪神・淡路大震災：震災で繋がる人・地域・世界

震災後、米国 SF の日系人団体から「隣人」として多大なる支援を受け、信頼関係は東日本大震災以降も続いている。震災で繋がる人・地域・世界がある。特に計 2 回の SF での「支援者の心のケア研修」は貴重な体験となった。

アフガニスタン難民支援 (2002. 9) インド洋大津波スマトラ沖地震 (2004. 12)

緊急支援の現場から見える世界。戦争と災害しか知らず、平和を知らない子ども達がいる。特に女子の抑圧されている悲惨な状況は今も変わらず、更に悪化している。

中村哲医師のこと：元 JOCs パキスタンワーカー

「医療では人は救えない。貧困は薬では治せない」、「百の診療所より 1 本の用水路」30 年間、草の根の人たちと共に生き、医療のみならず「命の水」を開拓し、農地復興と地域再生に生涯を捧げた”ドクター・サーブ”であった。(2003 年、アジアのノーベル賞と言われた「マグサイサイ賞」受賞)。

海外保健医療協力の現場から—JOCs (日本キリスト教海外医療協会) —ネパールの地域医療と岩村昇医師

ネパールの「赤ひげ」岩村昇医師の働きは「みんなで生きる(サンガイ・ジウネ・コラギ)」の実践である。しかし医療で救えぬ貧困や限界や無力感も経験した。ある時、受入団体の責任者に心情を吐露したところ、「ドクターは多くの人の命を救った。しかしネパールに本当に語り合える友人はいるか」と問われ、改めて「隣人とは誰か」を考え、活動を続けた。(1993 年、マグサイサイ賞受賞)

東日本大震災 (2011. 3. 11)：悲嘆と痛みに寄り添う

SF の日系人団体(前述)の支援と SF での研修を糧に、支援者の燃えつき・孤立、そしてストレスケア(Care Giver への Care)を目的に、臨床心理専門家と共に、計 20 回、YMCA 東山荘で支援者のリフレッシュプログラムを持った。

社会福祉法人・興望館(創立 1919 年：日本キリスト教婦人矯風会外国人宣教師による)：

興望館は、困窮する女性へ支援と地域福祉(セツルメント)に尽力した女性宣教師たちが始めた。当時はスペイン風邪の時代、困難を極めたと思う。しかし諦めず祈りつつ活動を続けた。久布白落實当時の理事長(東京都民教会創立牧師)が、旧約聖書から「Door of Hope/希望の扉」として団体名を名づけた。(興望館=希望を興す館)阿部志郎先生より、精神科医帯木蓬生氏の著書「Negative Capability—答えの出ない事態に耐える力」を学んだ。本日のお話から、私たちも貴重な「きづき」を頂く機会となりました。

リアル参加者

岩崎、小川、小原、川嶋、村野、三浦、江尻。

ZOOM 参加



※ 在京ワイズ合同新年会

1月7日(土)

早稲田奉仕園スコットホール

日本キリスト教団早稲田教会

受付 11:30~

礼拝 12:00~

ウクライナ支援 チャリティーコンサート

10:00 集合

世田谷クラブがお世話役です

会場設営など、お手伝いをお願いいたします

※ YMCA 保育園ねがい

「おやこでガーデニング」を開催しました

11月19日(土) 10:00~11:30

好天に恵まれた暖かな日差しのもと、お父さん、お母さんと一緒に保育園児はガーデニングを。

プランタにチューリップ、水仙、ヒヤシンス、クロッカス、百合などの球根を植えこみ、最後にパンジーを植えて。

春の訪れのころが楽しみです。

寺門さん、川嶋さん、村野さん、小原史奈子さん、小原がサポートを。

(小原 記)



※ 三茶にサンタがやってきた

プレゼントが届かない子どもがいないよう、いつものクリスマスにできるように、みんなでサンタの格好をし、三軒茶屋を練り歩き、サンタだけが乗る貸し切りの世田谷線で、子どもたちと共に楽しいひと時をすごして。

みなさまからの貴重な献金は、今年も100万円を超えたようです、詳細は次月号で。



※ キャロリング・下北

12月3日(土) 讚美歌を歌う会から生まれた「キャロリング イン シモキタ」は下北沢駅前で開催され、日本語・英語・ハンデル、そしてウクライナ語の「きよしこの夜」が歌われました。

キャロリングの願いは東京武蔵野市を中心にした沢山の教会とYMCAが続けている「0422市民クリスマス」で、いつの日にか、下北沢市民クリスマスが祝える日を夢見ています。

(小川 記)



※ 会長通信 2212

一番好きなクリスマス。コロナで休んでいるYMCAすずらん会では、アルマムジカの応援団も一緒になって、ビンゴやプレゼント交換を楽しみました。会場は今日クリスマスメッセージをお願いした増田琴牧師の経堂緑岡教会です。1月第4木曜日から、感染対策をしながら、再開します。世田谷区から表彰されて、嬉しい活動再開です。会場設営、受付など世田谷クラブメンバーのご協力をお願いします。

1. 10月28日、「ウクライナ緊急支援チャリティーコンサート」第2弾が日本基督教団霊南坂教会で開催され、約90名が来場した。飯靖子氏（公益財団法人東京YMCA理事）と方波見愛氏によるオルガンとピアノの演奏の他、東京YMCAの支援により実施されている、ウクライナYMCA主催プログラムの報告がなされた。コンサート終演後にウクライナ支援の募金を呼びかけたところ、163,601円が寄せられた。

2. 11月20日、会員部主催の「ソシアス2022」がオンラインで開催され、会員、職員、学生他51名が参加した。川平朝清氏（元NHKアナウンサー・昭和女子大学名誉教授）より「沖縄復帰50年と平和について－ヤングマン&ヤングウーマンに期待すること－」と題して講演をいただき好評であった。講演後は8グループに分かれて、講演の感想や意見を分かち合う時間を持った。

3. 11月27日、山手センターにて70周年記念のOBOG・現役リーダー会が開催され、様々な世代をまたぎ、120名の方が参加した。クラフトコーナーやキャンプソングコーナーなど、グループ活動やキャンプを思い出すひと時を過ごした。

4.

5. 今後の予定

- ・「スキー実技リーダートレーニング」
12月16日（金）～18日（日）
- ・「ウクライナYMCA支援活動報告会」
12月14日 オンライン
ウクライナYMCAによる、現地活動報告
（日本語通訳あり）
- ・「わくわくデイキャンプ」
12月27日（火）～29日（木）
- ・「冬のふじさんぽ」12月28日（水）～30日（金）
- ・「フレッシュスキーキャンプ」「シュプールスキーキャンプ」 1月5日（木）～8日（月）
- ・「第17回子育て講演会」
1月28日 オンライン
講師：大豆生田啓友氏（玉川大学教育学部教授）

「極月の人々人々道にあり」（山口青頓）。極月とは1年が極まる月、つまり12月のことだ。さまざまな事情を抱え、往來を慌ただしく通り過ぎる人々、、、。そんな街角の情景を吟じた一句だろうか。今年もいつの間にか、押し詰まってきた。きょうから、師走である。▼この季節になると、思い出す人がいる。3年前の12月4日、アフガニスタンの東部で、イスラム原理主義の凶弾に倒れた医師の中村哲さんである。先日、ミニシアターで「荒野に希望の灯をともし」という映画が上映されていた。なぜ、病を治す医者が井戸を掘り、用水路を建設したのか。その経緯がよくわかる作品だ。▼当地では、度重なる干ばつによる渇きと飢えで、人びとは命を落とした。医療には限界がある。大河から水を引き、乾燥した大地を潤せないか。用水路の建設を発想したのだ。なんと柄の大きな構想だろう。物資の乏しい地でそれを実現してしまところがすごい。没後、その生きざまは日本の教科書でも取り上げられた。▼クリスチャンであった中村さんは、撃たれることも覚悟し、治安が悪化するアフガニスタンの地に赴いたのだろうか。ふり返れば、そんな思いも募る。「一粒の麦もし死なずば、、、」という聖書の言葉を胸に刻んでいたのか。人それぞれに進むべき道がある。中村さんの生と死を思うとき、冒頭の句の味わいもまた増すのである。

日経新聞 春秋 2022.12.1

会費 及びファンドのお振込み
銀行口座のお知らせ

みずほ銀行 経堂支店
普通口座： 1200041
トウキョウセタガヤワイズメンズクラブ